

知っていますか？ 埼玉の基地問題

入間、所沢、そして沖縄

西坂戸 大山 茂

6月9日(日曜日)、九条の会さかどが「埼玉の基地問題を考える」をテーマとした「14周年のつどい」を開催します。近隣の9条を守る運動や平和運動を進めている3名の方々にお越しいただき、それぞれが携わっている「基地問題」を語っていただきます。

所沢市からは、横田基地からの土砂搬入の反対運動を進めている大山茂樹さん、入間市からは、「ストップ入間基地拡張！市民の会」の小川満世(みつとし)さん。そして川越市からは、「沖縄の基地問題」を各地で語っている齋藤美紀子さんを予定しています。

在日米軍横田基地で始まった外周道路の付け替え工事は、オスプレイの専用施設工事の搬送路としての使用を前提としていたことが、米軍の文書で判明しました。付け替え工事で発生する大量の土砂を米軍所沢通信基地に搬入することに、所沢市民の反対運動が起きています。

航空自衛隊入間基地では今、入間市民の「スポーツ公園」として計画されていた「ジョンソン基地」跡地の森を奪い伐採して、戦争法施行の下での入間基地拡張工事を強行していることに、入間市民の反対運動が広がっています。

辺野古の新基地建設への反対の声が根強いことは、昨年の沖縄県知事選や2月の県民投票に表れています。にもかかわらず、安倍政権は、辺野古への土砂搬入を進めています。

「戦争はイヤ！もうだまっちゃいられない！川越市民の会」のイベントでは、しばしば沖縄の基地問題を取り上げています。川越市の齋藤さんは、沖縄の基地問題の語り部として活躍しています。

坂戸市には、陸軍坂戸飛行場がありました。戦後、

米軍基地にされようとしたが、開拓農民をはじめ住民の力で米軍基地になることを阻止しました。九条の会さかどでは、毎年10月に陸軍坂戸飛行場の跡地などをめぐる「坂戸の戦跡めぐり」を行なっています。

坂戸市の上空にも飛来しているオスプレイについての不安も広がっています。県内各地での基地拡張反対運動や沖縄での行動と交流し、語り合い、憲法9条を守る運動に大いにつなげていきたいと思っています。

出合い発見！活動フェア

森戸 権平二幸子

発見！市民活動フェアも終わりに近づく頃、九条の会さかどブースに設置した「9条〇×アンケート」に〇を付けていた人から、「権平君のお母さん？」と声をかけていただきました。

私の息子は、小5の夏休み明けに北海道余市町立沢町小から大家小に転校してきました(沢町小の教師集団は、今まで出会ったことのない素晴らしい教師たちでした)。

転校後の約半年で休みがちになり、中学1年の冬休み明けから中3の6月まで、実に1年半、不登校を続け、以後は行くようになりましたが、その全ての期間、息子と同じクラスだったと言うのです。

あれから18年経た今も覚えてくれていた人がいたことに、驚きと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。そのことも形にして残しておきたく、短歌を3首詠んでみました。

あれから18年経た今も覚えてくれていた人がいたことに、驚きと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。そのことも形にして残しておきたく、短歌を3首詠んでみました。



九条の会さかど 14周年のつどい

日時 6月9日(日曜日)13時30分~16時

会場 坂戸駅前集会施設(2階)

内容 埼玉の基地問題 入間、所沢、そして沖縄

横田からの土砂搬入、入間基地拡張、沖縄の基地問題から

この年も やって来ました につきいに
君の笑顔は 我をはげまし
子を介し 会うは初めて 語る人
子育てただ中 たくましき母に
くる年も 元気な笑顔 会いにゆく
続けることに 意義があります

後日、市民活動フェアでの出会いを息子に話しましたが、全く覚えていないと言うのです。

人は、人を介して出会いと別れを繰り返しつつ生き、成長していくのだとあらためて考えさせられる出来事となりました。

息子を忘れずにいてくれた彼女は、今、二人の子供のたくましいお母さんですが、「緊急時一時保育所」に勤務する傍ら参加しているボランティアグループの一員として、会場に来ていたのでした。発見！市民活動フェアでの“新たな出会いの発見”でした。

ビキニ被爆を風化させない(3)

末広町 石川裕一

海域に漁船900隻

水爆実験当時、ビキニ海域には900隻を超える漁船が操業中であった。これらの船は帰港後、船体・漁獲物・船員の放射能検査を受けており、多くの製品が「その時、測定器がガーガー鳴っていた」のを記憶している。また、漁獲物は殆んど廃棄処分された。これらの漁船員も第五福竜丸同様に放射能被爆は明らかだと思われるが、アメリカはいち早く放射能測定結果を没収し、被爆の事実を封印してしまった。

第五福竜丸船員の実態も「輸血による肝臓障害」として処理し、当時の日本の鳩山内閣と「人道的立場からの見舞い金の支払い」で決着とした。

高知では被爆は禁句

高知市からも多くの漁船がマグロ漁に出港していたが、帰港後は風評被害を恐れて「被爆は禁句」に。その後多くの漁船員が「がん」等を疑いつつ死亡した。

しかし、高校生たちが打ち捨てられていた「廃船の放射能調査」を行なった結果、高濃度の放射能が検出された。この活動を指導した山下教諭は、国に「漁船員らの放射能検査結果の公開」を請求、国会でも質疑されたが、国は「それらの記録は一切存在していない」と回答。被爆実態の解明は困難になった。

その後この調査を聞いたヒロシマの放射能専門家が協力を申し出て行なわれた「歯のエナメル質」や「血液の細胞染色体」の検査により、漁船員たちの被曝自体が明らかになった。

高校生が聞き取り調査

ビキニ被爆の実態を追い続ける活動は、高知県の高校生に受け継がれ、1985年幡多地区で一軒一軒訪ねて聞き取り調査を行ない、7年間で約300人の漁船員や遺

族から話を聞いた。

こうした活動は自治体も動かした。86年には土佐清水市が独自調査を行ない、同市出身の漁船員が267人いたことが判明。88年には「ビキニ被災船員の会」が結成され、がんを含む定期的健康診断を県に要請、被災実態調査も要求している。

司法の場で事実解明

太平洋核被災支援センター事務局長の山下正壽さんは「政府が60年以上闇に葬り続けてきたビキニ事件の真相について、初めて司法の場で被災者自らが事実を証言しました。そして司法はその証言や証拠を認め、第五福竜丸以外の高知を始めとした多くのマグロ漁船員の被爆を認めました」と語る。

約1万人もの漁船員とその家族数万人の人生を狂わせた日米両政府の政治決着とその責任は、厳しく問われるべきなのだ。(次号に続く)

核のゴミ どうするの？

原発と核のゴミを考える市民向け講演会 地層処分とは…

「核のゴミ」を地下300mに保管すること！ 火山・地震は大丈夫なの？

高レベル放射性廃棄物「核のゴミ」は原発が稼働する限り発生し続けます。安全に保管する場所も見つからないのにもかかわらず、再稼働が進められています。

しかも、福島第一原発の汚染水問題は解決の見通しが立たず、放射性物質の利用がいかにか難しいかを示しています。そのような状況にもかかわらず、2017年7月、経済産業省は高

レベル放射性廃棄物の処分場選定のための「科学的特性マップ」を公表しました。

地学団体研究会では、地質の専門家としてこのマップの非科学性について学習を進めてきました。市民の皆様にもこの問題を知ってほしいという思いから、この講演会を企画しました。一緒に考えていきませんか。

- 日時 6月8日(土曜日)14時～16時
- 会場 ウェスタ川越 1階多目的ホールD
- 交通 東武東上線川越駅西口から徒歩5分
- 主催 地学団体研究会(地団研)埼玉支部
- 参加 無料(事前申込みも不要です)
- 連絡 090-4241-5064(久津間)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

6月27日、7月25日、8月22日(第4木曜日10時～12時)
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室

